貞一の日記（拔萃）（明治卅六年五月卅一日生男兒）

その母

九月十三日　半間ばかり、手放しにて歩む。
便通四回
食事　粥一膳一回、乳、おもゆ、三回　葛湯一回　睡眠　十二時間
九月十四日　下痢七回もあり　熱は卅七度六分ばかりある故　例の醫師の診察をうく　食事も睡眠も前日に變らず。
九月十五日　醫師の注意により、母乳を廢し初めんと、夜ねむる時のを與へざりしに、中々むづかしく、ばあやに負はれて泣く、父も書齋にてもり居られず　抱きて室内をあるきまわり、やうく〳〵ねむらす。
便通四回　色少しよろしけれど粘液まじる。

食事　桂の霜一回　玉子湯おもゆ四回　乳一回（夜半）食慾少なし
睡眠　十時間
九月十六日　都合により　例の醫師を見合せ某醫學士の許に行く、母に抱かれて車にのれば　大喜びにて元氣なり、藥をもらひて歸る時　オッキ〳〵といひて　瓶を指ざす　午後より　和倉温泉に行き　二階にて遊び衣類を入るゝ籠を座敷中おしまわり　どこでも行きあたれば、その壁、こゝの唐紙を叩きておこる、下痢五回水分多く粘氣あれども、元氣は中々宜し。醫藥の功少しも見えねば、或は食物の轉換を要することもやと醫と相談す。
食事　桂の霜（二盃）一回　スープ一盃　四回
くづゆ一回　乳一回

睡眠十一時間

腰湯四回

九月廿五日　齒はときけば　齒を指し　父さん母さんも　きけば指さす。

九月廿六日　余り下痢長くつゞき　醫藥の　効驗も見えぬ故　父母種々心配の結果　小兒科には老練の名ある、神田の小原賴之氏の許に行き診察を乞ふ　乳は廢する方よろしとの事に　夜半も飲さず　父起きて世話をなす　食物は　おしつぶし麥を　盃に一盃に水二合入れて　三盃になるまで煎じたる汁を與へよとなり

九月廿七日　醫師の許にて　灌腸をなす

乳はやめる方よろしきも　中々むつかしければ徐々にせんと　晝夜にて四回位　他は麥汁のみにせよといはる。

九月廿八日　少しく風邪の氣味あり　機嫌惡し。

便通四回　色は青けれど水分少なく粘あり。

九月廿九日　母の傍によれば　乳をのみたがる故ばあやと春さんに　遊ばしてもらふ。

九月卅日　醫師は牛乳を用ひされば此後の發達に影響する所少からざれば是非とも試みよと言はれしまゝ　今朝七時頃乳二麥汁一の割合にして盃に二盃飲ませしに　喜びて飲む、異狀なし、午後三時に亦飲ませしに　喜びて飲みしも　五分ばかりして　皆吐き出す。

食を減じられ空腹の爲めに元氣少しく惡く余り下にて遊ばず　ばあやに抱かれたがる。

便通五回　色黑く粘あり。此頃より漸く衰弱の兆見え始めぬ。

食事　牛乳二回　麥汁四回、母乳一回

睡眠十一時間

十月一日　朝牛乳を飲みし時は　顏少し赤く眼のまわり紫がゝり　胸惡しき樣に見えしが吐かす夕方も　胸惡しき樣子見えたり。よく〳〵牛乳の嫌いな性質と見えたり。

便通二回　黑色少し薄し

食事　牛乳二回　麥汁三回　乳一回

睡眠　十二時間

十月二日　小原醫師に牛乳を試みし結果を　報告す　醫師の云はるゝには　此兒は牛乳のあはぬ質故　今少しく經過を見て　魚肉より滋養をとる事にせんと。但し牛乳を用ゐぬ故一時は大いに體量を減ずるものと承知せらるべしとの事なりし。

便通二回　黑く粘あり

食事　今日より薄き粥を二回與へ　其他は母乳とす

睡眠十二時間

十月三日　昨日父上に買つて頂きし　自轉車のふもちやを押してあるく。棒の尖に車と鈴と付きたるものにて歩き始めの幼兒が歩行方を練習するに宜しき玩具なり。

十月四日　朝の中は無事　母の不在中も　空腹の爲か機嫌惡し　母學校より歸りて乳を飲ます暫時にして　乳を吐く事二回　小原醫師の許へ連れ行く　醫師は特別の事もなし　只乳を飲み過ぎたるならん　今少し扣へよとの事なれば歸宅後も乳を與へず　麥汁ばかり與へしに又吐く　夜半に起きし時も麥汁のみにて眠らせんとしたるに　中々眠らず　母を見れば　乳を飲み

たがる故　母はかくれ　父起き出て　麥汁を飲ませ　眠らせんとすれど　泣きて止まず　ばあやも起きて麥汁を作り　飲ませしに　ぐい〳〵と飲み　漸く父に抱かれし儘眠る。

便通五回　粘あり、粒々の物あり、一回量多し

十月五日　朝醫師に行く　熱は卅七度五分　終日元氣なく　床に臥す　夜も熟睡せず

十月六日　朝より機嫌惡し

便通五回

食事　麥汁（三盃づゝ）四回　乳四回

十月七日　元氣なく終日機嫌惡し　下齒三枚になる　夜も時々覺めて泣く。

便通一回

食事　麥汁二回　乳五回

十月八日　機嫌惡し　夜乳を吐く　今日始めて魚肉を與ふ。他に營養分を取る道なき故、主として魚肉にて取らんとするなり。

便通　三回（乳のかたまりたる樣な粒々あり）

食事　乳五回　麥汁三回　粥、急肉（セイゴ）一回

十月九日　此頃の經過にて見れば　牛乳を用ふる事は　止めしにも拘らず　元氣なく　乳を吐きなどするは　母の乳質變りて　その爲なるべければ　母乳も斷然廢し　魚肉と麥汁と粥少しにて　養育せよと醫師は言はれたり。

便通一回

食事　麥汁六回　粥一盃、麥汁二盃魚肉少々三回

十月十日　氣分少しく宜しき方なり　全く乳を止めたる故なるべし。

便通二回　前日よりは宜しき樣なり粒なし

十月十一日　元氣少しく宜し

便通一回

十月十三日　食べたがる事甚し

便通三回　少しく粘あり水分多し

十月十五日　より廿九日頃までは毎日　仝じ容體にて　便通は一回或は二回　元氣は追々宜し。食事は魚肉一回の量三匁。種類はせいで、かれい、ひらめ、あまだい、こあじ、あいなめ等。粥酒呑猪口に三盃又は四盃、麥煎汁二盃にて晝四回　夜二回又は三回。近頃は歩く事も、這ふ事も全く已めて、たゞ元氣なく、抱かれて居るのみ。たゞし、空腹に迫る時は、マンマ〳〵といひつゝ、臺所の方に向ひ、力なき身體をいざりよせるのみ。生後一年五ケ月許りなり

割烹

石井泰次郎

昔時の割烹の本の内で、記し方の可のを少しぬきまして、今の料理の筆記と合せて見るたよりに致します、

◎胡椒飯のたき方（こせうの名をきらいます地方では祝の粉と申してあります）

米一升に、胡椒の粉を小匙に三杯、醤油を小皿に一杯、一所にまぜまして、水加減をして、飯にたきます膳に組立て進めます時には、飯椀、汁はかつを煎汁、醤油からくないほどに加減して、青いきざみ昆布を短く切て入れまして、鴨頭には大根おろし、陳皮、蕃椒、山葵等を手鹽皿に盛て添てれぜんを進めます、

◎桔梗玉子の拵方

雞卵を煮ぬきまして、皮を去りまして、又湯の中